

# エゾナキウサギを観察して

遠 田 由美子

えんだ・ゆみこ  
(ナキウサギふぁんくらぶ)

はじめに

九五年七月末、ナキウサギの天然記念物指定などを目指し、発足した「ナキウサギふぁんくらぶ」では、九六年の事業計画として中心に据えたのがナキウサギの観察記録でした。ほとんど生態などを含め、知られることの少ない動物であり何とか多くの方にその生態と生息環境を知らせることで護ることにつながるのではないかと考えたからです。

然別湖周辺のナキウサギの生態ビデオ作製(北海道新聞野性生物基金助成により)、ビデオによる生息環境記録(全労災より助成)を行うことが決まり、私もスタッフとして、その調査、観察に加わることになりました。

## 調査・観察の内容

ナキウサギに関する生態調査をする必要があると思っていたが、私たちふぁんくらぶスタッフが行うようになったことは、ナキウサギに会えるうれしさと裏腹に、素人の私たちに何ができるのだろうかという不安が頭をよぎりました。

ふぁんくらぶでは、ナキウサギの調査を行っている帯広畜産大学院生の小島さんのアドバイスを受け、素人では個体数調査は難しいので、活動量調査が良いのではないかとりました。

調査地は二か所にしぼり、A調査地では調査地をほぼ均等に三定点で、二人一組により観察し、二台のビデオに記録する方法が取られました。

A地点での観察が主に記録され、内容は、ビデオを回しながらナキウサギの鳴き声の回数、鳴いた場所、姿が見えた時の動作などを記録していきます。合わせて、天候、気温、照度(日射影響)、

風速なども計器類の助けを借りチェックします。

調査期間は、四月から十一月までとし、調査は月一回行われました。でも繁殖期の六月と貯食時期の十月は回数を増やして行われました。土曜日の午後二時間、翌日の日曜日の午前二時間を観察時間とし、季節の状況に合わせて時間の延長をしました。

## ナキウサギの生息地へ

札幌方面より観察地然別湖周辺に、昼食時間を含め約五時間で到着。足寄、苫小牧からの観察者も合流し、約十名となります。先客(カメラマン、観光客)のとめてある車の台数を気にしながら、私たちが駐車し、身仕度をしてから観察の細部打ち合わせを行います。

カメラやビデオの入ったバックを背負い、三脚を持って、林道を登ります。いつも「今日会えるかな、元気であるかな」と思いを馳せながら、十分ほど登って観察地のガレ場に着きます。所定の場所、定点で、三脚を立てたり、準備が整うと後は待つのみです。

じーっとガレ場を見つめ耳を澄ましてると、しばらくしてちょこちょこと近付いて来たのは愛敬者のエゾシマリスでした。人にまとわりつくように寄って来てしばらくすると去っていききました、突然「キチッ、キチッ、キチッ」と鳴き声が聞こえてきました。すると別の方向からも「キチッ」と鳴き声が出て、鳴き交わしをしているのでした。体中の力を振り絞って鳴いている姿を見ると、元気でいてくれたなーとほっとする瞬間でもありません。ちょこんと岩の上でひなたぼっこをしたり、毛づくろいなどをしている姿、イソツツジやスゲ

を食べるしぐさなどをビデオに記録します。

このようにして観察は続いていきます。

### 観察をして感じたこと

観察に参加することによって、いろいろなことを目にし考えさせられました。

自然の営みのなかで、ナキウサギの天敵であるウエゾオコジョやエゾクロテンを目撃し、食うか食われるかという厳しい彼等も生きていかなければならないと。

土曜、日曜にもなると観察地のガレ場にはたくさんさんのカメラマンや観光客が、朝早くから一日中ナキウサギを待ち構えています。ナキウサギの数よりも圧倒的に人間の数が多く、姿が見えるとすかさずその方向へ寄って行き、一斉にシャッターをおします。しかし、このナキウサギはそれくらいでは動じません。人間のことなど気にせず無心にイソツツジを食べて、時にはポーズを取っているかのように見えてなりません。警戒心の強いナキウサギが、わずか一m程まで近付いてくることもあります。なぜこんなに人馴れしてしまったのでしょうか。

そして驚きの場面に遭遇しました。果物の匂いがあるので回りを見渡すと、岩に果物を擦りつけている人がいるのです。「止めて下さい。」というとその人は止めたのですが、少し離れた場所でも、岩場に直に果物を置いて、ナキウサギを誘い、ナキウサギが寄ってきた場面を見ました。同じ岩場に住む、シマリスにもヒマワリの種やビスタチオ、パンクズがばらまかれ、人が来ると寄ってくるのもうなずけました。さらに、そのシマリスの食べ残しなどを狙い、小さなネズミがちよろちよろし

ているのを何度も見かけました。

アップで写真を撮るのが目的でしょうが、野生動物に安易に餌を与えることは許される行為ではありません。

また、多くの人が出入りすることや、観察路以外への立入りで、イソツツジ、ガンコウラン、ハナゴケ類など、植物の踏み荒らしが目立ちます。より良い観察地であるために

以上、多くの問題があることに気づきました。この観察地は、唯一ナキウサギをまじかに観察

できる、ふれあえる場所です。長く観察するためには、私たち人間が自然に対してのルールを守らなければならないと思います。

餌やりなどは絶対しない、観察路からはずれなよう警告の意味のロープを張るなど、これだけは守ってほしいなどの看板を立てる工夫が欲しいものです。

餌問題などを含め、生息環境の保全が必要であることを痛感いたしました。



ナキウサギの風景  
調査風景  
上下

おわりに

五時間も車に乗り、一年近く観察場所の然別湖周辺に通っあものだなーと思います。ある程度のところまで記録できました。後で、ナキウサギの研究者に一通り目を通してもらった時、こんな貴重な場面をよく記録したというものも含まれております。

編集、音入れも終わり、近いうちにナキウサギ・ウォッチング入門編『ナキウサギの世界』のビデオが出来上がります。ふぁんくらぶでは、このビデオが多くの方に普及することを願い実費でお分けします。特に子供のために学校・幼稚園単位で希望があれば無料で差し上げることになりました。

合わせて、札幌を皮切りに道内八か所で行った「ナキウサギの世界」の写真をふまえて、東京新宿文化センター（九七、三〇二四より）において「大雪山の花とナキウサギ」写真展を行います。

ビデオや写真展を通し、ナキウサギの住む環境に多くの方の関心が高まればと願っております。

